

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100236		
法人名	有限会社 ふれ愛		
事業所名	グループホーム ふれ愛の花 1階		
所在地	〒085-0031 北海道釧路市中島町4番11号		
自己評価作成日	平成27年2月25日	評価結果市町村受理日	平成27年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JkyosyoCd=0194100236-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成27年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ふれあう真心、あふれる笑顔」のホーム理念のもと、一人ひとりがかけがえのない存在として、尊厳を大切にそのひとらしく生活できるよう支援しています。尊厳を守る為に気を付けることを標語にし、定期的に自分たちができているか振り返りを行っています。

認知症の方が落ち着いて生活できるよう温度、音、明かり、匂い等の環境を整え、清潔を保つよう心掛けています。職員も環境のひとつであると考え、認知症の方の話を否定せず傾聴、共感、寄り添うケアを心掛けています。

認知症の方が持っている力を発揮できるよう、できることできないことを見極め、できることはして頂き、できないことをさりげなく支えるようにしています。日常的に入居者様と職員と一緒に洗濯物を干したりたたんだり、掃除や食事作りを行っています。ホームでの役割を持って頂くことで張り合いを持って生活できるよう支援しています。春には山花リフレの市民農園を借り、南瓜やとうもろこし、玉葱等を植え、ドライブがてら農園へ行き農作業をしています。

家族の方がホームに来られた時は笑顔で挨拶し、入居者様の近況をお伝えしたり、楽しい時間を過ごして頂けるよう心掛けています。何かあったら家族の方に相談し協力を得ながら、その人らしい生活を送ることができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は開設から6年目を迎え、ホーム長、管理者と共に、全職員が「その人らしさを大切にし、尊厳を守り、笑顔と真心で接する」との基本理念を共有して、利用者の日常生活支援を行っている。職員間のコミュニケーションも良く、意思疎通が図られ、協力体制を築いている。利用者一人ひとりに寄り添い、人格を尊重したより良い支援に向けて、職員一体となって取り組んでいる。家族の理解も得られており、避難訓練や運営推進会議への参加など、協力関係を築いている。職員は、明るい挨拶、親切・丁寧な連絡や説明など、家族が安心できる対応に努め、家族との信頼関係を繋げている。地域との関わりも増えており、職員が町内会の班長を引き受けて行事に積極的に参加したり、日常的に挨拶を交わしたりするなど、交流を深めている。小学生が通学時に挨拶をしたり、幼稚園児が訪問し一緒に歌を唄ったりして交流している。地域の人から認知症などについて相談を受けた際には、説明して話し合い理解を深めるよう取り組んでいる。事業所で農園を借りて農作業を楽しむとともに、収穫した野菜を調理して食事の楽しさに繋げている。かかりつけ医や協力医療機関、訪問看護ステーションと連携して、適切な医療対応ができる体制作りに取り組んでいる。居室、居間、浴室、トイレなどは掃除が行き届き清潔が保たれており、自宅から継続した生活環境で、居心地良く過ごせるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念は常に職員が見る位置に掲示し、日々意識しながら仕事をしている。社内研修や定例の会議等にて理念の共有を図り、実践につなげている。	事業所独自の理念を作り、玄関、廊下に掲示している。定例会議、社内研修会などで振り返り、話し合いを行い、確認し共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、盆踊りや総会に参加したり、廃品回収の協力をしている。地域の方にホームの行事や避難訓練に参加して頂いている。庭の掃除や雪かきの際、近所の方と声を掛け合ったり、通学の小学生に声を掛けて交流を図っている。	職員が町内会の班長を引き受け、総会、廃品回収、盆踊りなどに参加し交流している。事業所の避難訓練や運営推進会議に町内会から参加があり、理解が深まっている。地域の小学生が通学時に挨拶を交わしたり、幼稚園児が来訪してお遊戯や歌を披露したりして、利用者と交流している。地域の人から認知症などの相談を受けており、支援に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方がホームに相談に来られた際は、話をよく聴き、助言させて頂いている。運営推進会議で認知症の人の理解や支援についての話をさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では評価への取り組み状況、プロジェクトで写真を見て頂きながら行事の報告を行っている。地域の方や家族の方の意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、町内会関係者、家族、地域包括支援センター職員が出席している。事業所の活動状況についてプロジェクトを使用して報告し、意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の各担当者と日頃より連絡を取っている。事故報告や何かあった時は、代表者が市役所へ出向き報告、相談を行い、事業所の実情を伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	代表者が市役所担当者と連絡を密に取り、事業所の実情や事故報告などを伝えて相談している。市担当者からは助言や情報を得ており、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、身体拘束をしないケアを行っている。玄関の施錠は、夜勤帯以外はしておらず、入居者の帰宅希望等には、無理に引きとめず、一緒に外へ出掛けホーム周りを散歩したり、本人の思いを傾聴したり、気を他に向けて頂けるよう対応をしている。	職員は会議や勉強会で身体拘束の禁止について話し合い、理解に努めている。拘束については『認知症』と『人』の権利をみんな考える小冊子を基本に、ケアに取り組んでいる。夜間帯のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修、社内の勉強会等で学ぶ機会を持っている。日頃より入居者の体の変色、あざ等に気を付け、発見した場合は管理者に報告、職員間で共有し、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修に参加し、制度について理解している。いまのところ必要性が高い入居者はいないが、今後必要になる場合もあるので、職員についても研修等で学ぶ機会をつくっていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にホームに見学に来て頂き、利用者、家族の不安や疑問点について十分な説明を行うよう心掛けている。契約の際には重要事項について丁寧に説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃より入居者や家族とのコミュニケーションを積極的に図り、意見、要望をいい易い雰囲気を作るよう努め、それらを運営に反映させるよう取り組んでいる。	家族が来訪しやすく、意見、要望を言いやすい雰囲気作りを心がけている。利用者の状況報告などもこまめに連絡しており、家族の意見、要望を取り入れて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議の中で、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。また管理者、代表者は普段より職員が意見を言いやすい雰囲気を作るよう努めている。	職員は、定例会議で気付きやアイデアを出し合い、代表者や管理者は意見を聞き、話し合っって運営に反映させている。個人面談を行い職員の意見を聞きとるとともに、日頃からコミュニケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個人の勤務状況を把握し、努力や実績を評価している。各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の力量を把握した上で、積極的に外部の研修を受ける機会を設けている。また同じ法人の他の事業所と合同で研修を行っている。研修後は、報告書を作成し、会議で内容、感想等発表して、学んだことを共有し、活かせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症GH協会の研修等に積極的に参加し、他のホームの職員との交流を図り、ネットワークづくり、情報交換やケアについての相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談、本人との面談の段階から、困っていることや要望等に耳を傾け、安心して入居できるよう努めている。入居後は、本人の言葉、態度、表情から本意を汲み取り、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談では、家族の思い、困っていることや不安なことをじっくり聴くよう努めている。入居後は家族が来訪した時は、本人の近況を報告し、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受けた段階で、本人の状況、ニーズを把握し、その時に必要とされる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に掃除、食事づくりを一緒に行い、利用者から長年の経験から教えて頂くことも多い。食事やお茶のひと時を共に過ごし、そこでいろいろな会話をし、暮らしを共にしている者同士という関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪した時は、出来るだけ本人とゆっくり過ごせるよう配慮している。普段の生活の様子を家族に報告、なにかあった時は相談している。共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や以前住んでいた家の近所の方等、馴染みのある方が来訪された時は、笑顔で出迎え、本人の所へ案内している。馴染みの方に電話を掛けたいと要望のある入居者には、電話の取り次ぎをしており、馴染みの方との関係が途切れないよう、努めている。	自宅への帰宅時や家族や友人の来訪時には、ゆったりと楽しめるよう支援している。馴染みの理・美容室の人が来訪しており、関係を継続している。家族・知人の声を聞き安心して過ごせるよう、電話の取り次ぎなど個々の希望に応じている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握するよう努めている。入居者間で言い合いになっても、すぐに介入するのではなく、状況に応じ対応するようにしている。入居者同士が関わり合い、支え合えるよう見守りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もいつでも立ち寄って頂けるように声掛けをしている。退居後、家族が訪ねて来てくれたり、電話で相談されることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向については、本人に聞くようにしている。困難な場合は、生活歴や日常の会話や行動から汲み取ったり、様々な方法で把握するよう努めている。	日常の会話の中で一人ひとりの思いや希望、意向を汲み取り、職員間で共有している。要望を表すらい利用者には、表情や様子を観察し、寄り添って把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方について本人や家族に聞いたり、センター方式のシートを活用し、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、できること、できなかったこと、心身の状態等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各フロアーの会議の中で、一人ひとりの介護計画について、評価、見直しを行っている。より良く暮らすための課題を本人の言動や家族の話、職員の気付きから見つけ、家族、職員の意見、アイデアを反映し、介護計画を作成している。	利用開始時に本人、家族の意見や希望を聞き、ユニット会議で全職員が課題を話し合い、介護計画を作成している。職員の気付きや状況変化がある時は、ケア会議で意見やアイデアを出し合い、プランの見直しをして、家族と話し合いながら介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の一日の生活状況の記録を付け、身体的、精神的状態を職員間で共有し、日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今のところニーズがないが、必要に応じて柔軟に対応していく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々が慰問に来て、入居者と一緒に歌を歌ったり、踊りを踊って、楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、それぞれのかかりつけ医に受診したり、往診にて適切な医療を受けられる様支援している。	本人、家族の希望に応じて、かかりつけ医を継続受診している。専門医の往診のほか、事業所の協力医療機関から月2回の訪問往診がある。また、月2回訪問看護師により健康管理が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護師の来訪時に、入居者一人ひとりを診て頂き、こちらからも日常の関わりでとらえた情報や気づきを伝え相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、安心して治療できるように、病院へ情報提供している。主治医や相談員と退院へ向けての相談を行い、早期に退院できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から家族と話し合いを行い、看取りの指針に沿ってホームで出来ることを説明し、医療機関とも連携を図り、支援に取り組んでいる。	利用開始時に看取り指針の説明をして、本人、家族から同意書に確認印を得ている。医療機関、訪問看護ステーションと連携を図り、方針を共有してチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、市民防災センターへ行き、救命救急(心肺蘇生、AEDの使い方)の訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームにて避難訓練を行っている(年2回)。市民防災センターへ行き、避難誘導訓練、消火訓練、通報訓練を行っている(年2回)。避難訓練の際は町内会に参加協力して頂いている。	年2回避難訓練を実施している。町内会の参加を得て、消防職員の指導のもと、利用者の避難方法や模擬訓練、誘導訓練を行っている。職員は市民防災センターで救命救急の講習を受け、実践力を身に付けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、対応のための標語を掲げ、ホーム内の職員の目の着く所に貼っており、気を付けて対応している。	利用者本人の尊厳を尊重した、接遇に配慮する「ふれあい標語」を掲げて、事業所内勉強会やマナー研修会で話し合い、プライバシーを損ねない対応に努めている。	人格を尊重したケアを一層進めるために、接遇に関する研修などを実施して、更に知識とスキルを深めることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望をできるだけ表したり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごせるよう、急かしたり業務優先にならないよう気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を尊重し、季節感のある、その人らしい身だしなみや、好みのおしゃれができるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや嚥下の状況を把握し食事を作っている。また、利用者に材料を切ったり、盛り付けや味見をしてもらったり、日常的に利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。	一人ひとりの状況を把握し、利用者にあった材料の切り方や味付けに配慮している。準備や片付けなど、利用者ができることを一緒に行っている。誕生会、正月、ひな祭りなど行事食を工夫している。また、バイキングなど家族と外食を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分量を記録している。水分が不足している時は職員間で共有し、こまめに摂取を勧めている。バランスの良い食事が取れるよう献立を作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、毎食後、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の一日の排泄のパターンを把握した上、自立した排泄の支援を行っている。	排泄パターンをバイタル表で把握し、一人ひとりの習慣に合わせて誘導し、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、ヤクルト等の乳製品、野菜等を摂るようにしたり、水分を多く摂取したり、運動をして頂く等予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおまかな入浴の曜日、時間は決まっているが、状況によって流動的に対応している。一人ひとりの希望やタイミングにあわせて、入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	基本的に曜日や時間は決まっているが、その日の状態や希望に応じて柔軟に対応している。入浴を拒む利用者にはタイミングを見て声をかけている。同性介助を望む利用者に対応しており、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、健康状態、睡眠の状況を把握し、安心して眠れるよう室温、明かり、音等の環境を整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容、副作用について理解し、薬を飲み込むところまで確認している。薬の変更があった時は、様子を観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に洗濯物を干したりたたんだり、もやしのひげ取りをしたり、モップ掛け等の役割や庭に花を植えたり、山花のリフレ農園を借りて野菜を栽培したり、盆踊り、ドライブ等の楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望にそって、散歩、ドライブ、買い物等で戸外に外出している。毎年行っている演芸会を楽しみにしている方がおり、主催者の協力を得て車椅子の席を用意してもらい他の入居者、職員で参加している。	散歩や買い物のほか、花見や公園へのドライブに出かけるなど、気分転換ができるよう外出支援をしている。事業所が借りている農地に出かけ、春には土おこしや種まきをして秋に収穫するなど、利用者の楽しみとなっている。個別の外出希望には、職員が同行して支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じてお金を所持したり、買い物に出かけられるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話、手紙のやり取りできるよう支援している。家族に頻繁に電話の希望がある入居者については、家族の了解を得て電話の取り次ぎをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、明るさ、臭い等不快な刺激がないよう配慮している。入居者と一緒に掃除をし、気持ちよく過ごせるようにしている。また、季節により飾り付けし、季節感を感じて頂いている。	共用空間は適温が保たれ、清潔に掃除されている。ソファや畳の小上がりがあり、懐かしさを感じながら寛ぐことができるよう配慮している。手作りの大きなカレンダーには季節感を感じる飾り付けをして、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入所者同士で会話したり、共用空間の一人掛けのソファで独りになったり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンス、テーブル、鏡台等を持ち込んで頂いたり、家族の写真、本人の好みの造花、ぬいぐるみ等を飾ったりして、居心地良く過ごせるようにしている。	居室の入り口には本人の表札が掛けられ、部屋には使い慣れた家具や鏡台、仏壇、位牌などが置かれている。家族の写真や飾りなど、家族との生活を継続して保てる環境にしており、本人の好みに居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり、トイレに案内札、浴室に「ゆ」と書いてあるのれんをつけて、わかりやすいように工夫している。		